

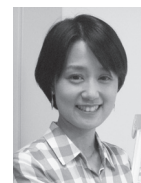
救急蘇生の新しい動き

GRA (Global Resuscitation Alliance)

～ OHCAの社会復帰率をさらに改善させるための世界共同の取組み～

第二回 GRA 発祥の地 米国シアトル・キングカウンティ郡での取組み①

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 臨床看護学講座
クリティカルケア看護学分野 西山知佳



はじめに

今回は GRA (Global Resuscitation Alliance) の活動の元にある、シアトルで発祥した Resuscitation Academy (<https://www.resuscitationacademy.org/>) について紹介をします。著者の所属を見て「なぜ、看護師がこれを紹介するのか?」と思った方もおられると思います。私は 2011 年 9 月～2012 年 9 月まで University of Washington の Harborview Medical Center へ院外心停止に関する研究を行うために留学し、その滞在期間中にシアトルで開催された Resuscitation Academy に参加しました。Resuscitation Academy の「卒業生」の 1 人として、受講生としての感想も加えながら紹介します。

Resuscitation Academy とは

Resuscitation Academy (以下 RA) とは、高い救命率を誇るシアトル市が 1970 年前半から取り組んできた活動を体系的に学ぶ研修プログラムのことです。

シアトル市では、病院外心停止の救命率向上のために PDCA サイクル (Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善)) を用いて、救急救命士の育成、救急システムの改善、市民への教育などを行っています。その結果、バイスタンダー実施

率は 67%、現場到着までの平均時間は 5.3 分、目撃のある心室細動症例の生存退院率は 56% と高い救命率を誇っています (King County Council の 2019 年報より)。このような高い救命率をどうやって成し得て、それを維持しているのかを、RA を受講することで学ぶことができます。

1. RA の目的

救命率の向上のために、シアトルで半世紀にわたって蓄積されてきたノウハウと科学的エビデンスを、希望する全ての人に提供することです。受講生には、それらの知識を持ち帰り自分の地域の特性に合わせ、それを応用することが求められます。

2. RA を運営している人々

シアトル市の救急救命士 (現役の救急救命士や指導救命士、元救急救命士や元指導救命士)、シアトル市とキング郡のメディカルディレクター、ワシントン大学の研究者、看護師、プログラムマネージャー、数学者、統計学者など 26 名の主要メンバーから組織されています。医師や救急救命士以外の医療者や非医療従事者など、職域を越えてこの活動が行われていることが特徴です。

3. RA のプログラム

Leadership Program (2 日コース)、High-Performance CPR Train-the-Trainer Program (6 時



間)、オンラインコースの Cardiac Arrest System Assessment (30分)、RQI Partners Program の 4つのプログラムがあります。

Leadership Program が基本コースです。RA では、救命率向上を実現するための病院前救急医療体制改善のプロセスを次の 10 steps にまとめています。

①心停止レジストリの構築、②口頭指導による CPR、③質の高い CPR、④迅速な出動、⑤蘇生活動の記録、⑥ PAD プログラムの導入、⑦ソーシャルメディアを活用した CPR と AED 実施率の向上、⑧ CPR / AED トレーニングの地域・学校への普及、⑨地域への説明責任、⑩ビジョンに基づき心停止患者の救命率向上を実現する文化の醸成

この 10 の steps について、シアトル市でこれまでどのように実践されてきたかを 2 日間にかけて学びます。10 の steps のタイトルだけを見てもわかりにくいと思いますが、いずれも実践例が提示されますので (泥臭い裏話も含め聞けます。)、日本ならどう応用できるかを考えながら講義を聴いていました。受講生は講義を聴いているだけでなく、自分たちの困っていることをみんなで共有して、RA の

メンバーからアドバイスをもらったりしていました。

写真 1 はこの 2 日間コースを受講した際にもらった教材と受講証です。講義で使われた全てのスライド、教育や取り組みの根拠になっている医学的エビデンスの PDF が入った USB をもらいました (なんて太っ腹)。なお RA の website から、一部の教材をダウンロードすることが可能です (<https://www.resuscitationacademy.org/toolkit/>)。

私がシアトルにいた時には、Dispatcher Resuscitation Academy (1 日コース) がありました。119 番通報を受ける通信指令員の役割は極めて重要なので、エビデンスに基づいた通信指令員の役割や重要性を学び、実際の音声を使いトレーニングも実施されていました。これに参加して、今でも一番心に残っていることは、「Survivor coin」です (写真 2)。通信指令員が心停止を認識して、バイスタンダー CPR を誘導し、心停止患者を救命できた際に、その通信指令員の功績をたたえるためのコインです。この会に参加していた通信指令員でコインをもらった方がおられたのですが、とても誇らしげに受講生にコインを見せておられ、他の受講生はそれが励みになっていたように感じました。

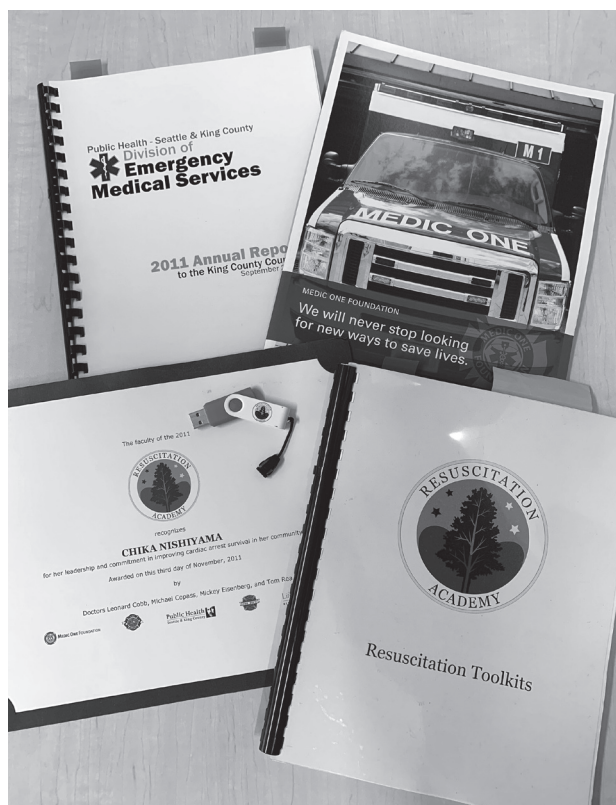


写真 1 教材一式

4. RA の開催場所や開催規模

Leadership Program は、年に 2 回シアトル市内で行われています。1 回あたりの受講者数は 20 名～30 名程度とこじんまりとして、RA のメンバーと受



写真 2 Survivor coin

講生が気軽に話せる環境でした。

GRAのメンバーとして活動している日本でも、2017年に東京で開催されました。今後は他の地域でも様々な方法で、GRAが掲げる病院前救急医療体制改善のための10のプログラムをみなさんにお届けしたいと考えています。

5. RAの受講料

なんと「無料」です(2020年5月現在、RAのwebsite確認)。筆者が参加した当時は、朝食、昼食、おやつ、夕食が提供されてびっくりしました(ただし、現在もこのように食事やおやつが含まれているかはわかりかねます。)

6. RAを受講した人数とその後

2008年に始まってから2020年5月現在、アメリカ国内、私のような海外からの参加者を含め18か国、合計2,000人が受講して、RAで学んだことを自分の地域に持ち帰っています。2019年12月、これまでの受講生(卒業生)が一挙にシアトルに集まり、RAで学んだことをどのように地域で実践しているかを

報告しあう「同窓会」のようなイベントが初めてありました(写真3. RAを学んだ人がいる地域をマッピングした世界地図)。

院外心停止登録システムを確立できたり、口頭指導の教育が強化されたり、救急隊のCPRの質が上がったり、市民へのCPRトレーニングの実施割合が増加したりと、各地で改善された内容やその程度は違えど、少しずつでも着実に何らかの「変化」が見られていると感じました。

最後に

シアトルでの取組みを日本にそのまま導入すればいいとは思っていません。日本の習慣、文化、制度に合わせ、RAの概念や活動をうまく取り入れれば、院外心停止例の救命率の更なる向上が期待できると思います。

今回は、米国シアトル・キング郡での取組み第2弾、ハイパフォーマンスCPRの実践です。お楽しみに。



写真3 世界地図